

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立佐太小学校）

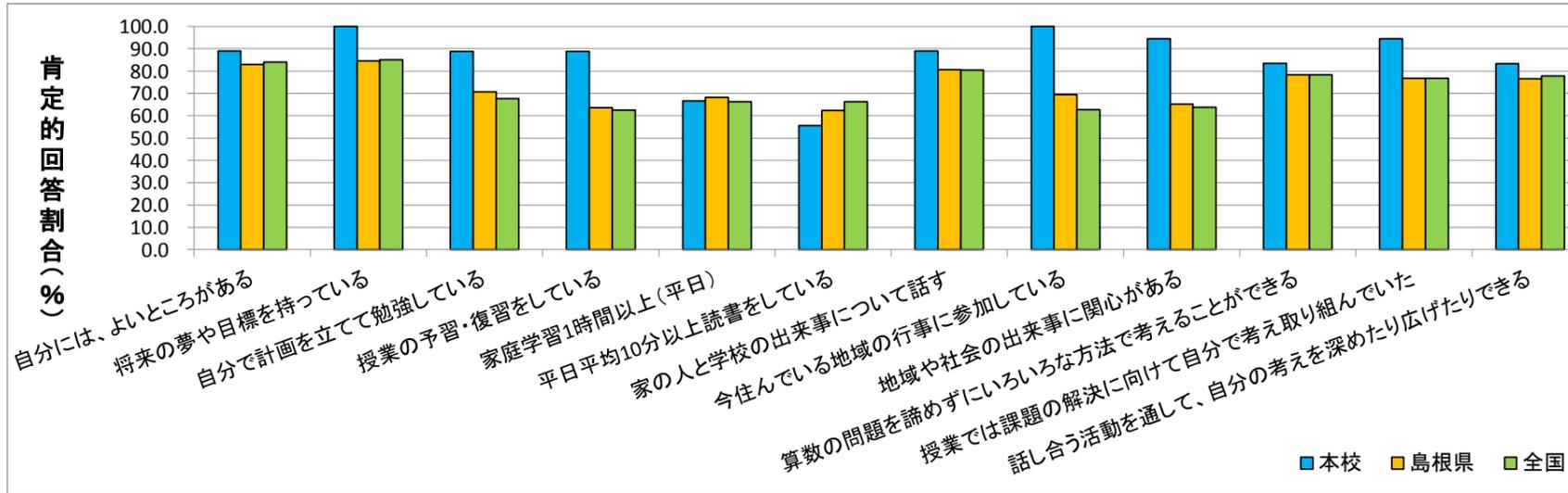
平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

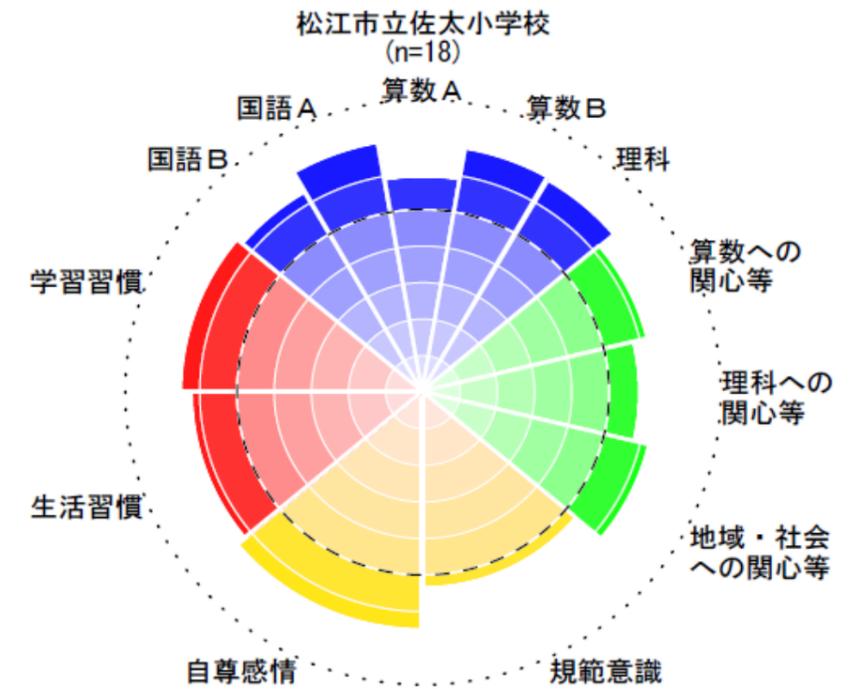
		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
国語	A (基礎)	○市や県の平均正答率を大きく上回っており、無解答率も0%であった。特に慣用句に関する問題では正答率が100%であった。 ●主語と述語との関係に注意して、文を正しく書くことができるかを問う問題で正答率が若干低かった。	・毎日の授業で行う振り返りの記述や、作文指導などを通して、主語・述語の関係を細かく指導し、正しい文脈で文章を書けるようにする。 ・漢字書き取り会などにおいて、同音異義語を出題するなどして、その漢字の意味理解につなげる。
	B (活用)	○市や県の平均正答率を大きく上回っており、無解答率も0%であった。一つ一つの問題にあきらめず取り組めたことがうかがえる。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見を比べるなどして考えをまとめることができるか問う問題で、全国平均より正答率が低かった。	・話し合い活動を通して、いくつかの情報を聞き取り、自分の考えをまとめて書く・話すなどの機会を多く持つようにする。 ・朝自習等で、条件作文(字数、使う言葉、内容等の制限)に取り組み、簡潔に文章をまとめる力を育てる。
算数	A (基礎)	○市や県の平均正答率を大きく上回っており、無解答率も0%であった。特に分度器の読み取りや、円周率に関する問題で高かった。 ●小数のわり算や単位量あたり(割合)の大きさの意味について理解しているか問う問題で、全国平均より低い結果だった。	・小数の割り算について、毎月の計算会で必ず出題するなどして繰り返し学習に努め、理解につなげる。 ・単位量あたり(割合)に関する学習においては、例年低い傾向にある。全学年共通の課題として、丁寧な指導を心がける。
	B (活用)	○市や県の平均正答率を大きく上回っており、無解答率もほぼ0%であった。立式を言葉で表現できる児童の割合が多かった。 ●複数のメモ資料やグラフを読み取り、言葉や数を用いて記述できるか問う問題で、正答率が低かった。	・さまざまな学習場面で、表やグラフなどたくさんの資料に触れる機会を持ち、試行錯誤しながら、自分の考えを表現できる機会を持つ。 ・文章を読んで内容を捉える、最後まできちんと読み切る力をつける。(学年相応の読書への取り組み)
理科		○市や県の平均正答率を大きく上回っており、無解答率も0%であった。光電池や食塩水の重さを考える問題で、正答率が高かった。 ●食塩水の蒸発実験から導き出された結論を、自分なりに考え記述する問いや、水の浸食作用について説明する問いで若干正答率が低かった。	・授業で行う実験の過程や結果を全員に発表させる、記述させるなどの活動を学年に合わせて指導する。 ・理科的な基礎知識を問う問題では、ほぼ100%の正答率であった。今後も用語や実験方法など基礎内容の指導充実を図る。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
		○「将来の夢や目標を持っている」「地域の行事に参加している」の項目は100%であった。自己肯定感が高く、家庭や地域の教育力に支えられながら成長している様子が見える。 ●家庭学習の時間や家庭での読書時間が県平均を若干下回っている。	・学年に応じた家庭学習時間について、宿題、自主学習、読書の時間などの程度設定するかを決め、取り組む。(6年は、宿題30分、自主勉20分、読書20分以上) ・週末には必ず図書館で本を借り、持ち帰らせる。自主学習ノートに読書記録をつけるなど、がんばりの足跡を残し、賞賛する。



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向 (破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・保護者に本校の良さや課題を伝え、学校の取組について理解してもらい協力をうながす。(学校評価結果の伝達や今後の取り組みについての協力依頼、家庭学習のしおりを使った啓発)
・算数を中心に校内研究でも推進している、「子ども同士が対話することで問題解決を図る授業」を意識的に行い、楽しい授業、分かりやすい授業に努める。(体験的活動の重視、視覚的教育機器の積極的な利用)

【参考】

○平均正答率

		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	86	70	68	70.7
	B	65	57	55	54.7
算数	A	70	62	61	63.5
	B	67	50	49	51.5
理科		72	59	58	60.3

受検者数 18人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。